

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470500188		
法人名	社会福祉法人 洗心福祉会		
事業所名	グループホーム シルバーケア豊壽園		
所在地	三重県津市高茶屋小森町字瓦ヶ野4159		
自己評価作成日	平成24年 10月1日	評価結果市町提出日	平成 24年 12月 12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 24 年 10 月 18 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域総合ケアセンター内にあり、保育園や診療所が隣接していたりと住環境が整っています。園児との交流や夏祭り・敬老祝賀会などの大規模な行事等もあり、年間を通じて季節感を味わって頂けるよう努めています。また、昨年度より施設内で通所介護サービスを実施していることもあり、入所の方だけでなく、様々な方との交流を持っていただく事で、楽しみのある生活を送って頂けるようになりました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は多くの施設を有し、各施設が連携しており、そのことが利用者及び家族の安心感につながっている。敷地内には保育所から特別養護施設等があり、利用者には各施設を行き来しており、グループホーム内のみにとどまらずいろいろな行事に参加し、常に刺激のある生活を送っている。家族の施設及び職員に対する好感度も高く、職員は利用者の笑顔の絶えないように一人ひとりにきめ細かなケアを実践するように心掛けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を基に、「津の町に根付いて明るく楽しく仲良く」をホームの理念に掲げ、玄関やリビングに掲示して実践に努めている。	掲示されている理念は、ちぎり絵で作成されており目につきやすく、職員間で共有している。安心して笑いが絶えないよう職員が支援するように心掛けている。地域総合ケアセンターを通して地域と関わりに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域総合ケアセンター内にあるため、隣接する保育園や他事業所との交流がある。また、通所介護サービスを実施していることから、毎日3名のご利用者様が来園されている。	併設の2ヶ所の保育園との交流や、事業所が開催する夏祭り等に大勢の地域の方々に参加している。また、市民センターで行われる祭りにも声かけがあり、参加を検討している。地域のボランティアの理容師により散髪を受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同敷地内に包括支援センターなどがあり、法人としての取り組みがある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度会議を開き、近況報告や施設についての話し合いを行い、地域からの情報を受け取る場として活用し、日々の介護に役立てるよう努めている。	奇数月に開催されており、老人会長、民生委員、市の担当者、家族及び利用者代表等が参加している。地域の方、家族代表者からも意見が提案されており、会議が有効に運営されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	法人全体を通じての連携がメインとなっており、広報誌を送付し、近況報告を行っている。事業所単体でも、必要に応じて随時連絡を取り、相談等を行っている。	法人として連携するほか、事業所としてはリーダーが更新・変更の手続き時に市の介護保険課と情報交換等を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人指定のマニュアルを基に、身体拘束廃止に努めている。	玄関は施錠されていない。法人内に身体拘束をしない推進部会を設け取り組んでいる。合同研修会で研修を実施しており、拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の参加等を通じての知識習得を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の参加等を通じての知識習得を目指している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項書に基づいて、入退所時に十分な説明を行うように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3ヶ月に1度のホームパーティー時に面談の時間を設け、近況報告や相談の場としているほか、必要に応じて随時連絡を取り合い、ご意見等の聞き取りを行うようにしている。	3ヶ月毎にホームパーティーを開催し家族との交流から、又、面会時に意見等を聞くように努めている。家族からの意見は連絡ノート等に記載し、職員間で共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、会議を開き、各職員の意見を反映させる場に行っている。年1回、施設長と全職員との1対1の面談を実施している。	毎日の申し送り、月1回の会議で職員の意見を聞き反映している。業務分担を検討し、通所の送迎を担当する等日頃から話しあっている。リーダーとは日々の実践で、施設長(兼管理者)とは会議で意見交換を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	住宅手当・育児手当等、諸手当の充実、役職への積極的な登用、職員住宅の完備等を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材管理課の計画を基に、各職員の意見も聞きとって研修計画を立てている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県地域密着型サービス協議会に加盟し、勉強会等に参加するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前調査にて、生活の問題点や生活歴の聞き取りを十分に行い、入所後もご本人のご意見・ご要望を把握するよう努めている。また、希望者には、以前に見学して頂くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前調査にて、不安や問題点等の聞き取りを十分に行い、入所後も随時連携を取ることで、ご意見・ご要望を把握するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所を検討して頂いている段階で、ホームの見学並びにご相談の機会を設け、疑問や不安の解決等に努めると共に、その時点で入所がベストかどうかの検討を担当ケアマネの意見も取り入れおこなっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所者様から随時、ご意見・ご要望の聞き取りを行うと共に、適切な介護内容について職員間でも話し合い、共に力を合わせてより良い生活を築いていけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族からの相談をお受けすると同時に、こちらからも必要に応じて相談させて頂き、共に力を合わせてより良い生活を築いていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間の制限を設けず、気軽にご家族や友人・知人が遊びに来て頂けるよう努めている。隣接する施設を利用されている友人・知人に会う機会も設けている。	機能低下が進むことで連絡を密にし、家族等に面会に来てもらうよう支援したり、併設の事業所にいる友人を来訪したりしている。家族の協力を得て祭りを見学したり、事業所は馴染みの所にドライブに出かける等の機会を作っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者様同士の相性を考えて、円滑な人間関係が築いていけるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等により退所された後も、状況に応じて今後の相談の場を設けたり、他施設へ入所された際には情報提供や相談の機会を設けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前調査や入所後において、生活歴や趣味の聞き取りを十分に行い、今現在の問題点や要望の把握に努めている。	入居時のアセスメントや家族からの話から把握したりしている。訴えない方は、表情や動作、問いかけの反応等から把握するように努めている。把握した内容はカードックスに記載し共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前調査や入所後において、ご本人やご家族に生活歴や趣味の聞き取りを十分に行い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態観察と記録の徹底、日課計画表の作成を行うと共に、毎月の会議にて情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度ケアプランの更新を行い、ご本人、ご家族との話し合い、また職員間での話し合いに基づいて、最適な介護計画を作成するように努めている。	会議で毎月モニタリング、3ヶ月に1度計画の見直しを実施しており、職員と計画作成者とが意見交換をしている。ホームパーティーの時に家族から意見をもらい反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を個人記録に記録するとともに、ケアプランの経過記録も毎月行い、それらを基に最適なケアを実践できる様に、会議にて情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度、柔軟な対応が行えるよう、日々努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	通所介護のご利用者との交流をはじめ、隣接する保育園や介護施設との交流を行っている。また、近隣へ買い物や食事に出掛ける機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接する診療所の医師を主治医として、緊急時でもすぐに対応できるように努めている。また、眼科や皮膚科など、かかりつけ医がある方は、定期的にかかっている。	入居時にかかりつけ医について説明を行い、家族及び利用者の判断で協力医にするかを決めている。2週に1度隣接する協力医の所に受診に出かけており、協力医とは夜間対応の協力体制ができている。他科の受診は事業所が支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する介護施設の看護師との連携をとり、必要時の相談や処置等を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、毎週面会に伺い、ご本人の状態把握に努めると共に、病院の医師や看護師との話し合いを持って情報交換等を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化に関わる指針」を基に、入所時に重度化した場合の説明を行い同意を得ている。重度化の兆しが見られる際には、その都度ご家族とも相談を行い、隣接する介護施設との連携も図りながら、適切な対応が行えるよう努めている。	入居時に事業所の指針に基づき説明がなされており、状態が変化した時には家族等と話し合いを行い、また、法人内の他施設と連携し、家族の希望に沿うように対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人全体の研修や、介護老人福祉施設との全体会議にて行う勉強会において、適切な対応が行えるよう訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震等の対応、緊急時の連絡網などの訓練を年に数回実施している。運営推進委員会にて、地域の方や行政の方と一緒に避難訓練を行う事もある。	9月には地震を想定しての避難訓練を実施し、課題の検討を行っている。11月には法人の訓練及び、地域・行政を巻き込んだ訓練を計画している。備蓄は法人で備えており、避難場所は免震構造の併設施設と災害に備えている。	訓練は繰り返し行うことで身に付くので指定場所への避難や夜間想定訓練等繰り返し実施し、災害時に備えることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の定める認知症対応マニュアルに沿って、プライバシーや人格等の尊重を心掛けた対応に努めている。	接遇委員会が設けられており、日々、利用者には意識して損ねないように気をつけてケアあっている。コミュニケーションを重視し、一人ひとりに向き合い、きめ細やかに対応することを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の意見を尊重し、希望に応えられるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	最低限の日課以外は入所者様の個々の意思を尊重できる様、希望に沿った対応をするよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族様との連携や預り金からの購入など、季節に沿った衣類を揃え、お出かけ時等、状況に応じたおしゃれができるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週金曜日の調理をはじめ、おやつ作りやホームパーティーなど、ご利用者の希望に沿ったものを、入所者様、職員が協力しながら調理を行っている。	特養の厨房で作っているが、金曜日の夕食は利用者の希望を聞き作っており、利用者の機能に応じて調理に参加している。ホームパーティーの時には家族と共におやつ作りをして楽しんでいる。誕生会には利用者の希望を反映している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	適切な食事量や水分量を摂取できる様に促し、自力での摂取が難しい方は介助を行っている。個々の能力に応じて、粥やキザミ食の提供、食べられない食材の代替提供も実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き・うがいの促しを行い、自力で行う事が難しい方には、介助を行っている。また、入れ歯は毎晩預かり、洗浄剤に浸けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力での排泄が難しい方に対しては、誘導声掛けを定期的に行い、失禁の防止に努めている。	昼間はトイレでの排泄を優先し、時間的に声掛けを行ったり、利用者の態度・行動等から誘導している。夜間も足元センサーやトップライトの点滅で利用者の動きを把握し、安全にトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お茶の時間を設けるなど、十分な水分補給を促している。自力での排泄が困難な方については、腹圧をかけるなどの介助を行っている。また、必要な方に対しては、主治医と相談の上、便秘薬の処方を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な曜日と時間は決めさせて頂いているが、入浴順や浸かる時間、お湯の温度については、個々の要望に応えられるように努めている。	毎日、午後から入浴を実施しており週4回の頻度で入浴されている。着替えの入った籠をリビングに準備すると袋に入れ、脱衣室に利用者が運ぶという流れが自然と出来ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は一定の決まりを設けず自由に休んで頂いている。エアコンや加湿器にて快適に休んで頂けるように心掛けている。昼寝も適度にとっていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬説明書を綴って、すぐに閲覧できるようにし、効用等についても誰もがわかるようにしている。新しい薬が処方された場合には、申し送りにて全職員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケや書道、創作等、個々の趣味に応じて楽しんで頂いている。レクリエーションも日替わりで計画し、参加して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時期には、屋外へ散歩に出掛けている。ドライブやショッピング・外食など、入所者様の希望に応じて計画し、参加して頂いている。	天候の良い日には、前のグラウンドに散歩をしている。併設の施設の行事に参加したり、喫茶室等に出かける利用者もおられる。また、外食、季節の花見、ショッピング等に出かけ、戸外に出るよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則的に、現金は職員管理とさせて頂いている。買い物等に出掛けた際には、お預かりしているお小遣いから、ご自分で支払っていただいたり、少額のお金を居室で管理して頂くなどの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、電話をかけていただいたり、手紙を書いて頂いて投稿したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、清掃を行い敷地内の清潔を保っている。季節に応じた飾り付けを行ったり、入浴時には入浴剤を使用したりと快適な空間作りに努めている。	廊下の天井が高く、ガラス張りであり、居室との間にベンチが置かれ、交流する場となっている。リビングの窓も広く、明るく開放的である。リビングの窓からは保育園の園児の姿を見ることができたり、畑でなっている野菜や花を鑑賞することができ、季節の移り変わりが感じられる空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室はすべて個室である。また、廊下やリビングなど、仲の良い方が思い思いに過ごして頂けるような環境づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には以前から使用されていた家具を自由に持ってきていただき、ご家族の写真を飾って頂くなど、それぞれの好みに合わせている。	ベッド、クローゼットが備え付け以外は利用者が使用していた家具が置かれている。壁には家族の写真や作品が貼られたり、利用者や家族がレイアウトし過ごしやすいように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は安全に配慮したバリアフリー構造になっている。毎日、歩行訓練を実施することで身体機能維持に努め、出来る事はご自分で行って頂くよう支援している。		